

# さんけん新聞

発行  
NPO法人  
三段峡-太田川  
流域研究会  
(代表・本宮炎)

〒731-3813  
広島県山県郡  
安芸太田町  
柴木1734  
090-34213046

## 一口メモ

▼夏は来ぬ  
五月末からトチ、朴、エゴノキ、オオバアサガラ、ヤマボウシなどが白い花を咲かせる。中でもウツギは「卯の花」と呼ばれ「夏は来ぬ」で歌われるように夏の風物詩である。旧暦四月は卯月。「卯の花の咲く季節」にちなんでいるとも言われている。峡内は夏へ衣替え。

# 学習旅行生 113 人受け入れ

## 里山ガイド18人「三段峡ガイドシート」を活用

安芸太田町里山ガイドのメンバーが5月24日、学習旅行で訪れた佐賀県唐津市立中学校生113人を長淵から黒淵まで案内した。「三段峡ガイドシート」を活用した初めての取り組み。

長淵〜黒淵間

### 六エリアに分け効率的に案内

参加した里山ガイド十八人は、男女混合六、七人編成のグループを正面口から黒淵まで、往復約三時間かけて案内した。

学習旅行の受け入れを控え、四月二十八日に開いた里山ガイド研修会で、本宮副理事長と本宮宏美事務局長が参加した。往路でガイドした内容を帰り道にテスト形式で質問したり、石の上に



終了後、結果を話し合う里山ガイドの皆さん

### ウェブマガジン「ぐるたび」取材対応 「あきおおた」社員らに三段峡研修

ウェブマガジン「ぐるたび」の取材に併せて五月二十八日、小林久哉副理事長が地域商社あきおおた社員の福住知晃氏と同社配属の地域おこし協力隊員・河本貴彦氏へ、三段峡研修をした。

正面口から黒淵までを往復六時間かけて案内。さんけんの取材に併せて五月二十八日、小林久哉副理事長が地域商社あきおおた社員の福住知晃氏と同社配属の地域おこし協力隊員・河本貴彦氏へ、三段峡研修をした。



本宮副理事長はあいさつで「想像以上の成果を上げ

### 「活動の効果測定優先」掲げる

三段峡-太田川流域研究会の総会が五月三十日、三段峡ホテルで開かれた。写真と決算、新年度の事業計画と予算、定款の一部変更を承認した。

本宮副理事長はあいさつで「想像以上の成果を上げ

【異動】副理事長 瀬尾淳(理事)、理事 高下務(副理事長) △退任 木下博志(理事)

### ホームページ開設

さんけんのホームページが四月二十五日にオープンした。写真、活動内容の紹介をはじめ、「団体概要」では三段峡憲章、メディア掲載状況、さんけん新聞のバックナンバー、年次報告や事業計画、スタッフ紹介などを掲載している。制作・デザインはさんけんの本宮曜理事。

<https://sanken-hiroshima.org/>

### 南峰と歩く ⑩ 竜ノ口(たつのくち)

### 開峡の原点 写真家南峰を虜に

正面口から徒歩五分の竜ノ口は、両岸が狭(せば)まって柴木川が大きくうねり、奔流が怒声のように響いて淵へ噴出する。龍の口に見立てた景勝である。

一九一七年春、熊南峰が初めて三段峡へ踏み入ったのは、写真の題材として竜ノ口を地元民に教えられたのがきっかけだった。南峰以前の峡谷は、ほとんど無名だったが、竜ノ口だけは古くから一部の文化人には知られていた。江戸期の広島藩の地誌「芸藩通志」には漢文と漢詩が載る。編者の一人、頼采真(さいしん)は、大索ロープにすがってようやく到着したと、行程の険しさを書いている。探勝路が無

い当時、大きく重いカメラと三脚を携えて、相当な時間と労力を要しただろう。

直前の冬は豪雪で、豊富な雪解け水は大迫力だったと想像される。あろうことか、三脚を流してしまい、最初

**ウェブ部門で支える この人**  
本宮 曜さん

「自分の持つスキルを社会貢献に活かすのが、これからは大切になって来る」と、さんけんの理事を買って出た。

ウェブメディアの構築や映像制作などメディアクリエイターとして東京で働きながら、さんけんのウェブ部門を担当する。ロゴ制作や4月に公開したホームページを制作した。立ち上がったばかりのさんけんにとって力強い存在。出身は岐阜。年に3、4回は、第2の故郷になった安芸太田へ「帰省」する。三段峡では探勝路沿いの植生を丹念に観察する。名前は「ひかる」と読む。本宮炎理事長は実兄。(炎)

